

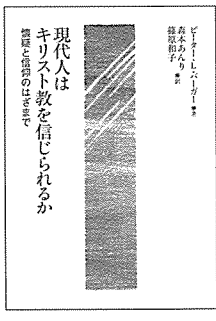
## 現代人はキリスト教を信じられるか

懐疑と信仰のはざままで

懐疑を乗り越えてなお肯定できる信仰

ピーター・L・バーガー著

森本あんり・篠原和子訳



高橋由典

この本は高名な社会学者である著者が、「懐疑的な気質とそれなりの知識をもった現代人がいかにしてキリスト教信仰を肯定できるのか」というテーマに正面から取り組んだ力作である。社会学とキリスト教の組み合わせは一見奇異である。現代人の信仰を論じるにあたって、社会学に拠ることの利点は何か。社会学という認識は、社会的事象（「キリスト教信仰」もその一つである）を徹底して「他でもありうる」という観点からながめようとする特徴をもつ。自明なもの、必然的なものなど一つもない。このラディカルな相対主義が社会学の売りである。他方著者によれば、現代の世界は「多元主義」によって特徴づけられる。現代人にとってはキリスト教も多くの宗教の一つでしかない。現代のキリスト者は、その条件下で自らの信仰を内省せざるをえない。となると、社会学が多元主義状況を生きる現代人の経験を語るのに格好な方法であることは明らかだろう。ふつうの社会学者は、キリスト教を論じる場合でも、現代の諸宗教の一つとしてながめるだけであり、決して「肯定」した

りはしない。だが著者バーガーは、「躊躇しつつ」ではあるがルター派を自認する一信徒として、大胆にもその「肯定」を行おうとする。むしろ彼は、その議論において社会学者であることをやめるわけではない。むしろその逆だ。徹底して社会学者でありつつ、なおも「肯定」を敢行しようとする。この緊張感が本書を比類なく読み応えのあるものにしてている。簡単に内容を紹介しておこう。バーガーは「キリスト教信仰」を論じるにあたって、使徒信条によってそれを代表させるという方法をとった。使徒信条のテキストに寄り添いながら、キリスト教の中心テーマを論じている。全十二章のうち、最初の四章は、使徒信条の最初の一文（「われは天地の創り主」以下）をもとに「神」を論じ、それに続く四章（第五章から第八章）では、使徒信条のそれに続くテキスト（「われはそのひとり子」以下）に沿ってキリスト論を展開し、残りの章（第九章から第十二章）では、「われは聖霊を信ず」以下のテキストに従って聖霊、教会、罪の赦し、永遠の生命をそれぞれ論じている。ま

た三つの補遺では、それぞれ、祈り、奇跡、道徳について語っている。

本書はこのようにキリスト教信仰に関係する主要テーマをほとんど網羅的に扱っており、その論述の仕方はあくまで知的である。だが知的・客観的に、ときにジョークを放ちつつ話を進めるバーガーが、いわば真顔になる場面がたまにある。「罪のない子供を死なせてしまうような神は、認めるわけにはゆかない」とまで言う。こう発言するバーガーは、農奴の息子が無惨に殺されたこと（本書中に引用されている挿話）を徹底して問題にしたイワン・カラマゾフと同じ地点に立っている。このときバーガーは、キリスト教を論じる人というよりは、まぎれもなくキリスト教信仰の当事者である。その語り口の真剣さを見ると、彼のキリスト教論全体は、実はこの「真顔」の問題関心に支えられているのではないかとも思えてくる。もしこの推

測があたっているとすると、当然のことながら、先にふれた「緊張感」が最も高まるのもこの地点においてということになる。バーガーはこの不条理に関連して「ケノーシス」（神の謙遜または神性放棄）と「復活」という二点を強調する。実にオーソドックスな信仰把握である。この議論を読むと、バーガーの議論それ自体が、正統信仰が現代においてもちろる可能性を示す一つの例証となっているように思う。バーガーの示す神秘主義への違和感や東方教会への着目も興味深いものであったし、本書に触発されて、「西洋社会ではなく」日本の現代について考えることも楽しかったが、すでに紙数が尽きた。原文の雰囲気をとともよく伝える達意の訳文を工夫してくれた訳者のお二人に感謝して、稿を閉じることにした。

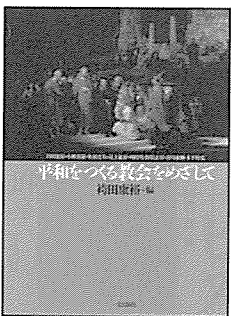
（たかはし・よしのり）京都大学大学院人間・環境学専攻教授  
（四六判・三二八頁・定価二六二五円（税込）・教文館）



## 平和をつくる教会をめざして

袴田康裕 小野静雄 牧田吉和 最上敏樹  
岡田明 野田正彰 市川康則 木下裕也

袴田康裕 [編]  
Yasuhiro Hakamata



牧師、神学者、国際法学者、比較文化精神医学者、高校教師が、現代の日本と向き合い、この時代に生きる課題と責任、とりわけキリスト者と教会の責任を真摯に問うた講演集

四六判  
定価 2,940 [本体2,800+税] 円  
ISBN978-4-86325-015-4



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)